

◎学習力を高める

「成績が良くなる・点数を上げる」と言う事が、途方も無い事だと「勘違い」している生徒が多すぎます。成績は誰にでも上げられます。

それぞれの理由で、やるべき事をやらないだけですから、やるべき事をやれば誰にでも満点が採れるようになります。

1. 勉強が苦手になる理由

①忘れる

人には、新しい知識を取り入れるために「不要な知識を忘れる能力」があります。無駄なものも忘れないと、「大事な知識を、すぐに取り出せない」からです。2~3日の間に、1度しか使わなかった知識は「捨てられます」

②理解できない

授業は、前回までの知識をもとに「プラスアルファ」の形で進められます。忘れた知識が多い程、理解できない事が増えます。

③とんちんかんな発想

人とは違う発想を笑われ、嫌いに成ります

④集中しすぎ

問題を解くのが好きなので、細かい所に気を配り、時間が掛かりすぎます。限られた時間内で、回答するのがテストです。

2. それらの原因

①忘れる

頭が良いと言われる人ほど、この傾向にあります。授業は、下から3分の1レベルの人まで判るように計画されます。頭の回転の速い人には、簡単でつまらないのです。だから、「家で復習」する事が有りません。一度しか考えないので、「寝てる間に『海馬』に消される記憶」です

②理解できない

下から3分の1のグループに入っていると言う事です。判らないのに、放っておくから、判らない事が増え、余計に授業がつまらなくなります。脳を使わないので、若いのに、老人の様に脳が『退化』し始めます。

③とんちんかんな発想

本来、科学は「今までの常識を疑う」生徒が居たから発見があり、発達しました。残念ながら、教える側の教師に、理科的発想がなく、突飛な考えを理解できないのです。本当は、大切な人材です。

④集中しすぎ

もの凄く勉強しているのに、テストで点が取れない代表です。高校までの教育は、誰にでも解ける「基礎知識」を使って解くようになっているのに、マニアックな難しい解き方にこだわり、「解き方を選んでいる」だけで、無駄に時間を消費します。

基本的に1点問題で無い限り、テスト問題は50分で25題解きます。1問解くのに使える時間は2分です。5分考えたら負けなのです。

3. 改善策

①忘れる

「家庭学習で復習」をする事が、最も有効。…1日に2度考える家庭学習が定着すると、各教科80点平均までは、楽に取れます。長時間は不要です。目的は「思い出す事」ですから、1教科10分~15分で十分です。このわずかな時間が無駄に思えるから、実行しないのです。

②理解できない

理科・数学の点数が伸びない生徒の理由です。「判らない事を質問できるのが『教室の役割』」です。判らない事は遠慮なく教師に聞くべきで、その事を『発言』と言うのです。教師は、発言回数をカウントして「興味関心」と言う項目で、成績に加味しています。「友達に聞く=おしゃべり」は減点対象です。

③とんちんかんな発想

これはもう天才の部類です。嫌がらず「皆と違う事は何か」を分析しましょう。嫌って諦めれば「落ちこぼれ」、イチロー選手のように「自分流」を見つければ「天才」と呼ばれるのです。人と違っても良いのだけれど、どう違うか「知っているのと知らない」とでは大違い。

④集中しすぎ

知識には、その単元に共通な「基本知識」と「応用技」が有ります。多くの予備校・学習塾は応用技にこだわるあまり、基本がおろそかに成り、余計に点が取れなくなります。学習の目的を「その単元の『基礎知識』は何か」と言う、『発見』にあると考えると、無駄な長考が無くなります。

4. ステップアップ学習法

自分がどの段階にあるのかを考えて、学習の目標を、小刻みに変えていきましょう

第一段階

家庭学習の習慣をつける。時間を掛けると、忘れてたりして叱られ嫌に成ります。

目的は思い出す事です。今日の授業を思い出して「数行にまとめましょう」

これは馬鹿に出来ない作業です。毎日の学習が定着すると、80点平均まで伸びます。

第二段階

80点平均で伸びなくなったのは、「**学習効率**が悪い」からです。

何でも書き写し「覚えるだけの学習」だからです。

この段階では、英語・国語・社会の『**予習**』を勧めます。

習う前に、自分で考える事により「**基本知識**」は何かを、見抜けるようになります。

必要な事だけを抜き出して覚える。これが大切です。これが出来るようになると

得点力が90点~95点平均になります。

第三段階

知識の使い方、引き出し方を学ぶ段階です。

簡単に言えば「**知識の反射神経**」を作る事です。

私は、自作のCAIを使って、計算能力を3分の1の速度に高めています

自分でも簡単にチェックできます。

新しい問題を解く事ばかり考えず、すでに解けるようになった問題に何度も挑戦し

3分の1の時間で解けるようにする事です。

基本的に考查問題は1題2分で解くのですが、基本問題を解くのに2分掛って

は、応用問題に掛ける時間が足りません。基本問題は1分で解き、難問の応用技に

25分掛けられる事が、100点満点取れるコツなのです。

この方法で2か月真剣に取り組んだ学生は、数学の模擬試験で全国一位になった生徒が3人。薬学部目指して浪人した人は4ヶ月で、各10点ずつしか取れなかった、英数理(化学)の科目で、英語90点、数学95点、化学100点取れるようになりました。

ほとんど学んだのは数学だけでしたが、「試験問題には、解答にたどり着けるように、『**ヒント**』が与えられている事」に気付き、数字が変れば、別の問題に見える数学と違い、英語や理科でも「何がヒントなのか」を考えれば答えが導き出せる事に気付いた結果です

5. 最終目的

今学んでいる知識の「基本知識」は何か、どんな「応用技」で変化を付けられるかを、自分で発見すれば『無敵』です。